

桑名市

生涯学習に関する団体ヒアリング調査

【結果報告書】

目次

| | |
|------------------------|----|
| 1. 調査の概要..... | 1 |
| (1) 調査目的 | 1 |
| (2) 調査期間 | 1 |
| (3) 調査対象団体..... | 1 |
| (4) 調査方法 | 1 |
| (5) 調査内容 | 1 |
| 2. 調査結果 | 2 |
| (1) 団体の活動について | 2 |
| (2) 活動の成果について | 4 |
| (3) 団体活動の課題について..... | 8 |
| (4) 活動場所について..... | 10 |
| (5) その他の聞き取りでのご意見..... | 13 |

平成 28 年 1 月

1. 調査の概要

(1) 調査目的

生涯学習に関する公民館講座、サークル、支援活動、ボランティア活動を行う団体を対象に、活動状況や課題、要望、今後の方向性などをお聞きし、新たな「生涯学習推進計画」策定の基礎資料とするために実施しました。

(2) 調査期間

平成27年11月17日～26日 事前アンケート（対象団体）

平成27年12月1日、2日、7日 対面による聞き取り調査

(3) 調査対象団体

市内の生涯学習関連施設で活動する団体の中から、活動が下記のいずれか（あるいは複数）を満たす団体として施設長等から推薦された17団体にご協力をいただきました。

- ・活動期間が長く、活発である
- ・参加者の年齢層が幅広い
- ・他の団体との連携、共催を行っている
- ・活動成果を積極的に地域に還元している

【団体内訳】 公民館講座 3、公民館サークル 8、子育て支援活動 2
ボランティア活動 2、スポーツ団体運営支援 2

(4) 調査方法

調査対象団体（公民館講座を含む）にアンケートを配付し、事前に記入いただいたうえで、各団体の代表者に対面による聞き取り調査を実施しました。1団体につき30分～40分程度。

(5) 調査内容

新たな「生涯学習推進計画」に反映する次の2つの課題についてうかがいました。

- ・生涯学習の成果を地域に還元・循環させていくために必要だと思われること
- ・生涯学習活動を行う「場」に関しての提案、要望

聞き取りでは、「学び合い、深め合う楽しさ」、「地域で活動する喜び」といった活動の成果と、「活動しているからこそ気づける課題」、「活動を続けるために工夫していること」、「今後進めていきたいこと」などをうかがいました。

2. 調査結果

(1) 団体の活動について

①活動の目的（アンケート）

「会員同士の交流」が13件と最も多く、次いで「生きがい・楽しみ」が10件となっています。

| ■団体の活動の目的(複数回答) | (件) |
|-----------------|-----|
| 会員同士の交流 | 13 |
| 生きがい・楽しみ | 10 |
| 知識や技能の向上 | 7 |
| 健康維持 | 6 |
| 豊かな人生を送る | 4 |
| 子どもの健全育成 | 4 |
| 社会貢献 | 3 |
| 地域をよくする | 2 |

②生涯学習・支援活動のやりがい、効果（聞き取り）

■現状と課題

○公民館講座やサークル活動への参加によって、「地域に知り合いができる心強さ」「できることが増える喜び」「意欲や励みを得られる」といった声があがっています。講座やサークルに集うことは、地域を知る機会、地域の人と出会う場となっていることがわかります。

○生涯学習を通じた自主的で緩やかなつながりが維持されるよう、そして、個々のやりがいや意欲も維持され、地域の人や地域活動につながっていくような、行政のバックアップが求められています。

※以下、聞き取りから一部を抜粋しています。

※自分の楽しみや趣味から出発した活動を<趣味の活動>、課題の共有・支援、社会活動を目的にした活動を<ボランティア・支援活動>としています。

<趣味の活動>

地域に知り合いができる、地域で暮らす安心感が生まれる

- ・(公民館講座) 同じ趣味を通して出会った人とは互いの距離が近くなる。地域にそういうつながりができると、例えば災害などの緊急事態のとき力になるのではと感じる。そういう関係性を築けるところがよい。
- ・(公民館講座) 家庭や子どもを優先せざるをえない主婦にとって、経済的にもお値打ちに自分の時間を持てるところがよい。
- ・趣味を楽しみながら、月に1回互いの消息を確かめ合えるところがよい。そういう場を持っていることで気持ちが安定する。
- ・仕事しているときは地域から疎遠になっていたが、講座を通して知り合いができた。
- ・地域で、全国で、知らなかった人との出会いがある。それが人生にいい影響を与える。それが生涯学習の醍醐味だと思う。

交流ができる、人とのつながりが広がる

- ・ある記念式典で合同コンサートをしたのを機に、他の団体にも声をかけて2～3年に一度、開催するようになった。発表の場があると団員の気持ちが一つになり、やりがいも生まれる。
- ・体操するだけでなく、横のつながりもある。場所に止まらず同じことをやっているサークルで交流が広がる。楽しみが広がる。

できることが増える楽しみ

- ・童謡を手話を交えて歌う活動もあり、やれなかったことがやれるようになる楽しみがある。
- ・不得手だったことに挑戦し、できるようになることがうれしい。新たな自分を発見できる。

その他

- ・(公民館講座) 先生が魅力的なので楽しく続けられている。
- ・先生から常に新しい知識や方法を教えてもらえることが楽しい。より意欲が増して元気になる。
- ・講座で同じ悩みを持つ人から情報をもらい助かることもある。
- ・外に出て人と交流すれば、世の中のことがわかる。
- ・大きな声を出す活動なので健康にもよい。
- ・みんなプロは目指していないが、知識や技術を磨きながら続けている。いろいろな陶芸作品を見に行くようになる(行動的になる)。
- ・サークルのメンバーで親睦会に出かける。それも楽しい。

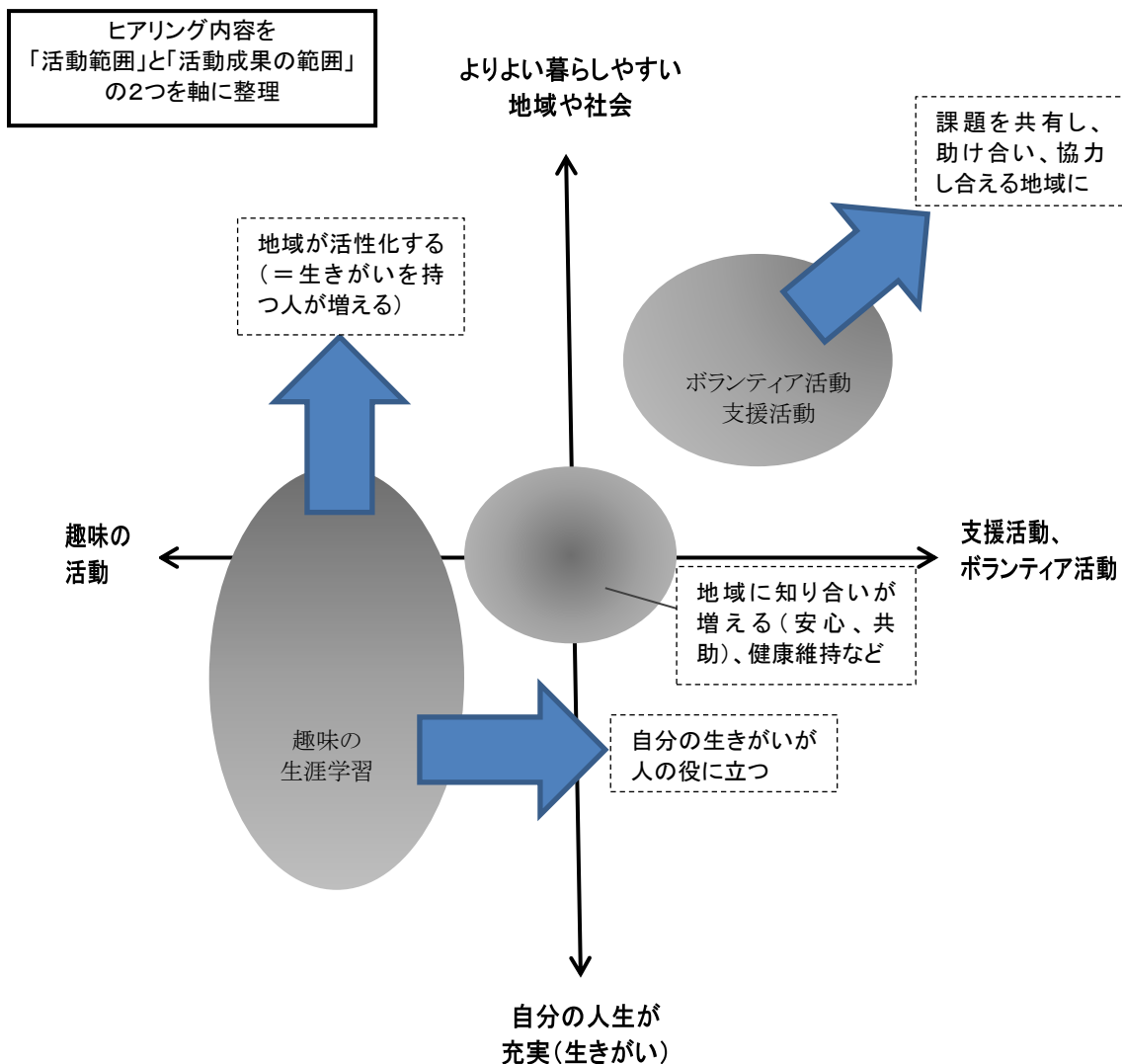
<ボランティア・支援活動、その他活動>

- ・紹介した本を子どもたちが手に取る様子を見たり、年配の方が本をきっかけに話をしてくやかに帰っていかれるのを見たりすると、やりがいを感じる。忙しい日々の中で、自分たちが活力をもらっている。

(2) 活動の成果について

■現状と課題

- 主として文化・芸術、スポーツなど趣味の生涯学習では、その成果や経験を「地域や学校での普及活動や指導」に生かしていたり、「福祉施設への慰問活動」を張り合いにしていたりすることがわかります。また、そうした行動は主体的に行われています。
- 楽しさややりがいを見出し、それを広げたいと考えて活動している団体の“生涯学習の現場”を行政が知り、そうした活動が多くの人の目に届くような広報、地域につなげていくしくみ(還元)づくりが求められています。
- ボランティア活動や支援活動では、活動そのものが、地域や市民の課題・不便を少しでもよくしたいという方向で行われています。「行政や他団体との連携」「活動範囲の拡大」「継続する大切さ」を意識しながら活動をしていることがわかります。
- 活動がより活性化するように支援したり、連携を取りもったりし、その活動が地域に広がり、根付いていくようバックアップすることが求められています。
- 行政は、生涯学習の成果を地域に還元し循環させていくために、下図の矢印方向へ広げるサポート、方策を検討する必要があります。



①活動の成果や経験の生かし方（アンケート）

アンケートでは、「地域や学校での普及や指導」が8件と最も多く、次いで「社会貢献」が3件となっています。

■経験や成果をどのように生かしているか(複数回答) (件)

| | |
|--------------|---|
| 地域や学校での普及や指導 | 8 |
| 社会貢献 | 3 |
| 家族や友人に伝える | 2 |
| 仕事の場で生かす | 1 |

②活動の成果や経験の生かし方（聞き取り）

<趣味の活動>

施設訪問やイベント参加

- ・先生から誘いがあれば、防犯イベントや施設慰問に参加している。
- ・年に20回ほど老人施設を慰問している。それが1つの張り合いになっている。
- ・PTA主催のイベント（小学校）、敬老会、他市のイベントに呼ばれて歌っている。

地域の子どもたちへの指導

- ・公民館主催の夏休みジュニア陶芸教室の応援をしている。
- ・小学校のクラブ活動、放課後のサポーターとして協力している。地元の小学校でも準備しているそうなので、活動を広げていきたい。
- ・今年から、公民館で「子ども囲碁教室」を始めた。

実生活に生かす

- ・実生活に生かしている。サークルで学んだエクセルで、町内のパークゴルフの得点表（自動集計表）を作って喜ばれた。
- ・パソコン操作だけでなく、災害時の携帯の使い方を学んだ。

<ボランティア・支援活動、その他活動> ※ふだんの活動内容

子どもを支援

- ・年に2回、読書週間に、2つの小学校の小1～小3対象にブックトークをしている。1つのテーマで10冊くらいの本を紹介する。
- ・1年を通して小学校の昼休みに、本の読み聞かせをしている。教師ではない「読み聞かせのおばちゃん」の立場で、児童に本と出会う楽しさを伝えている。

行政や他団体と連携

- ・市の防災支援ネットと一緒に、防災とアレルギーの講演会を開催した。
- ・市の防災・危機管理課と中央保健センターなどと意見交換会を行い、アレルギーの子を持つ親の不安を知ってもらう機会をもてた。行政による支援につながればよい。

できることを積極的に

- ・市の広報紙の音訳だけでなく、三重県視覚障害者支援センターを通して依頼される「視覚障害者向けインターネット図書館」向けの、本や雑誌の音訳を行っている。
- ・図書館の対面朗読室で、視覚障害のある人に対面朗読を行ったり、子ども向け・大人向けの読み聞かせ活動を行っている（2人1組で読む）。

③活動を広げるための工夫、成果を生かす工夫（聞き取り）

<趣味の活動>

リーダー自ら動く

- ・公民館文化祭以外に、自分たちのスケッチの展示会をしようと無料で展示できる場所を探した。その過程で他市の同じ趣味を持つサークルの知り合いもでき、交流が生まれた。
- ・講座の学びだけで終わらず活動を広げるには、フットワークがあり交渉をいとわないリーダーが必要。メンバーがリーダーを押しつけ合うような状態になると厳しい。

発表できる場へ積極的に参加

- ・ボランティア活動で成果を発表する場があると張り合いが出るので、施設に自分たちの活動を伝え、「いつでも声をかけてください」とPRしている。
- ・地域イベントの大山田グリーンフェスタなどに積極的に出て、活動を披露し、楽しさをPRしている。

敷居を低くしてPR

- ・活動をPRするとき、「うまくできなくても大丈夫」ということを伝えるために、わざと間違えることもある。

<ボランティア・支援活動>

対象者の目に触れる場所にチラシを置く

- ・（アレルギー児）サークルのチラシを、子育て支援センターや小児科に置かせてもらっている（支援センターの先生からの紹介による入会がほとんど）。

情報共有できるツールを利用

- ・子育て中は出掛けるのに制限があるので、メンバー同士は日頃からLineやメーリングリストを使って連絡を取り合っている。常に連絡が取れるようにし、定例会に参加できないお母さんも情報発信や相談ができる状態にしている。

ネットワークを広げて知ってもらう

- ・自分たちのテーマ、活動に関係する他の団体とのつながりを進めている（桑名防災支援ネットなど）。取り組みのルールができたり、広がったりする。
- ・名古屋のNPO法人アレルギー支援ネットワークに登録して最新の情報を得たり、東海アレルギー連絡会に参加したりして、情報交換ができるネットワークを広げている。
- ・深くつながることは難しいが、幅広く横のつながりを広げるようにしている。

参加しやすいイベントを開催

- ・アレルギー児のサークルがあることを知っていても、なかなか一步を踏み出せないお母さん向けに、気軽に参加してもらうよう年に1、2回イベントをしている。

④今後行なってみたいこと（聞き取り）

<趣味の活動>

- ・学校で教える機会があれば、ぜひ親子教室の形で普及させていきたい（伝統文化は高齢者の特権ではない）。
- ・地域の小学校で囲碁を教えるという活動も広げていきたい（子どもの声に慣れていない高齢者は難しいかもしれないが）。
- ・(囲碁) 地域にいるアマチュアの高段者の方にもっと出てきてもらい、地区で教えてもらえたらよいと考えている。
- ・活動の場を広げたい。演奏を聴いてもらえるボランティア活動などをしたい。
- ・大正琴に触れてもらうデモンストレーションなどの機会を作り、初心者が入会前に体験できる機会を設けたい。

<ボランティア・支援活動、その他>

- ・本の読み聞かせ活動をする学校を増やしたい。小学4年生以上にもブックトークを行いたい。
- ・子ども向けの行政の企画で、読み聞かせや本に関する場があれば参加したい。
- ・屋内スポーツ施設の不足解消のため、公共以外の体育館を使用できないか、交渉を検討したい。
- ・行政の災害備蓄品にアレルギー対応のものを加えてもらったり、アレルギー支援が届いたときの受付の拠点づくりについて話を進めていきたい。
- ・他の団体や市民の人に、アレルギー児が抱える問題、何に困っているのかを発信していく。
- ・地区の防災訓練に、アレルギー児を理解し受け入れる姿勢が出てきたので、地域に深く関わられるように動いていきたい。
- ・みんなでレベルを上げて、音訳編集に必要なデジタル知識にも対応できるようにしていきたい。
- ・活動を広げることも大事だが、続けることも大事。継続してレベルアップすることが大事。
- ・子育て中の女性が、それまで培ってきたスキルを生かしたり、仕事復帰のためのステップアップにワークショップに参加したりする機会をもっと増やしたい。

(3) 団体活動の課題について

■現状と課題

- 主として文化・芸術、スポーツなど、趣味の生涯学習では、「会員が増えない」「会員の高齢化」「リーダーや指導者の不在」といった課題があがっています。生涯学習は主体的に行う活動という性格から、こうした課題は各団体が工夫をしていくものですが、行政は公民館などの施設を利用して、うまくいった方法を他でも共有できるようバックアップする必要があります。
- ボランティア活動や支援活動では、運営上の課題、認知や活動範囲を広げていくうえでの課題があがっています。行政には、公益性の観点から、活動場所の提供や他団体との連携促進などが求められています。

① 団体の課題（アンケート）

アンケートでは、「会員が増えない（あるいは減少）」が9件と最も多く、次いで「会員の高齢化」が7件となっています。

■どのような課題を抱えているか（複数回答）

（件）

| | |
|-------------|---|
| 会員が増えない（減少） | 9 |
| 会員の高齢化 | 7 |
| リーダーや指導者の不在 | 3 |
| 会員間の意識の差 | 2 |
| 活動場所の確保 | 2 |
| 成果を生かす機会がない | 1 |

②団体の課題（聞き取り）

<趣味の活動>

会員が増えない

- ・会員の減少が課題。発表会には、関係者の家族以外はほとんど聞きにこないなので、そこでの活動のPRでは難しい。
- ・公民館で待っているだけでは会員は増えない。体操やスポーツは健康のためにやってみようと思ってもらえるが、楽器は体験に参加しようと思うまでのハードルが高い。

会員の高齢化

- ・会員の高齢化が課題。40代、50代は働き盛りで、続けるのは難しい。

リーダーの育成

- ・指導者を育成したい。趣味とはいえ、教える立場になるには十年はかかる。育成しないと先細りになる。

会員間の意識の差

- ・ボランティア活動への温度差がある。今年初めて福祉センターで演奏をした。先生はボランティア活動に熱心だが、メンバーの多くはサークル活動だけでよいと思っている。

その他

- ・ボランティア活動で喜んでいただけるのはうれしいが、活動が増えると重荷になる。

<ボランティア・支援活動、その他の団体>

会員間の意識の差

- ・(スポーツ少年団) 指導者の温度差が違う。

活動場所の確保

- ・室内スポーツ施設の不足が課題。これまで借りることができた企業の体育館がなくなり、市の体育館を様々な団体が取り合っている状態。
- ・活動場所が課題。30人近いメンバーが月1、2回の連絡会に参加する場所が継続して必要。

利用者、対象者に知ってもらうこと

- ・広報活動が大変。
- ・集客の少なさが課題。図書館での読み聞かせイベントに聞き手が集まらない。チラシや掲示板の案内では、なかなか思いが伝わらない。本離れと連動していることかもしれない。魅力を知った子どもたちはどんどん読むようになるが、魅力に気づいてもらうまでが難しい。
- ・(アレルギー児) 子どもが小学生になるとお母さんが働きに出て、子育てに関する情報を積極的に収集しなくなる傾向がみられる。しかし、小、中学生でも重症児はいるので、そういうお母さんともつながっていけるとよいと思う。
- ・若い視覚障害の方はインターネットなど様々なツールがあるせいか、音訳の利用者が増えない。また、個人情報の制約があり、社協からの呼びかけを行うことも難しい。
- ・市の障害福祉課や社協に広報紙を音訳したものを置いているが、利用者が増えない。視覚障害の方に声をかけるか、サポートする人に気づいていただくかしないと伝わらない。

その他

- ・自分のスキルを生かしたワークショップを開く活動の支援をしているが、満足感は得られても参加費は材料費に消えていくのでやる気が続かず、2回目、3回目と続かないのが課題。
- ・民生委員の方とつながっていけるとよい。

(4) 活動場所について

■現状と課題

- 公民館をはじめ、市の公共施設以外で講座やサークル活動に利用できそうなところとして、「コミュニティセンター」、地区にある「集会所」「寺院」「神社」などがあがりました。また、廃園となった公立幼稚園の建物の有効利用を求める声もあがりました。市の公共施設の総量削減の具体的な計画と合わせ、地域における生涯学習活動の位置づけとともに、既存の地域施設や公共施設の利用について検討していく必要があります。
- 公民館利用について、「地域子どもたちが主体的に使える施設になるとよい」という声があがっています。子どもを「守る存在」としてだけでなく、「主体的に活動する地域の一員」という観点から検討することが求められています。
- 市の財政や生涯学習の性格から、現行の生涯学習講座のシステムについて再考を求める意見があがっています。生きがいを見つけるきっかけ、学ぶ・学び合う喜びを得る場を提供し、市民が生涯学習に親しむという観点と、その成果を地域に還元するという観点から、生涯学習の方策を検討することが必要です。

①行政への提案・意見（聞き取り）

【既存施設の有効利用について】

- ・公民館以外の場所で思いつくのは、総合福祉会館、中央公民館など。
- ・コミュニティセンターもいいが、地区ごとに規則や制約が異なると聞く。地元の人の施設で、以前は無料で借りていたところが、市の管理・市の委託となり有料になった。高い。
- ・その地区（自治会）ごとに集会所、寺、お宮があるはず。そこを使わせてもらえるとよい。（行政も自治会まではなかなか立ち入れないだろうが。昔はお寺や集会所で集まっていた）
- ・閉園した公立幼稚園の利用。子育てサークルのスポーツ大会やレクリエーション、講演会などに利用できるとよい。「そこで学童保育ができないか」という声もよく聞く。
- ・子育て支援センター（キラキラやぽかぽか）の施設はとてもよいが、もともと乳幼児のために作った施設が使われずにあるなら有効活用するとよい。地域にも根付いている。キラキラやぽかぽかのような設備が整っていなくても、利用者が工夫して十分利用できる。

【公民館講座、サークル活動について】

公民館（場）の生かし方

- ・通年の講座は育児中の人に参加しにくい。単発講座で託児がついていると若いお母さんが参加しやすい。
- ・公民館が、高校生や中学生の力を生かせる場、自分たちで何かを企画して実行できるようバックアップできる場となればよい。例えば、中・高校生が小学生に何かを教えるなど。

- ・中学生も寄り付いて教え合えるような場になるとよい。家で、一人でゲームするよりよいのでは。いろんな年齢層が共存できるような場になればよい。

公民館講座、サークルのシステムについて

- ・以前は月に2回あった公民館講座が、市の財政の厳しさから年に15回となった。月1回では練習量が少なく、あまり上達もできない。生活の張り合いにもなるので月2回に戻してほしい。
- ・第1講座は公民館が講師料を負担する、第2講座は講師料の負担はないが、公民館が場の提供と光熱費の負担をする。こうした公的なバックアップが6年間もあるのは恵まれている。だが財政的に厳しいのも事実で、将来はサークル活動に移行して、市が講座の面倒をみるのは少なからざるをえない。自分のためになることには身銭を切ることでも大事。
- ・何万人と住民がいる中で、講座は十数人から数十人だけが恩恵を受ける。地域で必要とされていることは何かをヒアリングして講座内容を決めていくのがよいのではないか。時代に合った講座を開くと、いろいろな地域から人が集まってくる。
- ・現在、第1講座は3年。「3年間全部面倒をみたから、これからは少しでも自立しなさい」というのが第2講座の3年。しかし、他市の生涯学習講座は、1年だけ公的に面倒を見てもらい、次の年から自立するケースが多い。財政的なこと、税金の分配などを考えると、1年きっちり講座を受けて、もっとやりたい人が第2講座を自主的に立てるシステムの方がよいのではないか。
- ・急に3年から1年にすると反発が起こるだろう。行政は、1年にする根拠をハッキリ述べて、「あなたたちのことを考えて1年にする」ということを伝えていくとよいのでは。みんなの税金を使ってやっているものだから、生涯学習課の担当者が意思統一してハッキリ言わないと（生涯学習は自分の生きがい、自分のやりがいのためにやるもの。また、生涯学習の講座は一般市民のためにある。その講座の10人～15人のためにあるものではない）。
- ・生涯学習のきっかけづくりとして、1年は講座で面倒を見てもらい、楽しくてもっとやりたくなったら自分でやっていく。「いずれはその楽しさを地域に伝えて行けたらいいよね」と、上からの押しつけでなく、生涯学習をする人たちで話し合える空気を作っていくのが大事。一部の人たちだけが楽しくやっていたはだめ。生涯学習のよさを地域に循環させる活動（例、小学校を回って教える）をして返していけるようにするとよい。

【その他 生涯学習施設について】

- ・市の施設は安いので受講しやすい。安いのは魅力。
- ・行政には、経済効果も考えた施設運営が必要なケースもある。たとえば、高齢者は交流目的のスポーツ活動もしている。健康増進や生きがいだけでなく、人の移動や宿泊、手土産や賞品を伴うスポーツ交流が経済的効果を生んでいる（例、熊野市、尾鷲市）。地産のものを土産に持っていくことで広報活動もしている。

②行政に取り組みを望むこと、要望（聞き取り）

【公共施設の利用について】

- ・（親子のサークル活動をするのに）「ぼかぼか」には調理室がない。また、大山田コミュニティプラザは、年配の方のお料理教室が半年前から予約されていて、適切な時間に使用できない。
- ・「ぼかぼか」のよさは、子どもを木の遊具で遊ばせられるところ。お母さんたちが子どもを遊ばせて、その間にワークショップに参加できる。
- ・「ぼかぼか」は夕方時間帯に予約をとりやすいが、4時に遊戯室が閉まってしまう。施設はいいのに使えない。遊戯室が開放されていれば、もっと使いやすい。
- ・「ぼかぼか」の部屋は絨毯敷き。汚さないためにシートを使うように言われる。シート購入に何千円もお金がかかる。利用者のことをもう少し考えてほしい。規則が厳しい。
- ・生涯学習は年齢に関わらないもので、お母さんの活動も入ってくる。しかし、生涯学習活動の拠点になっている公民館などは、子育てなどを考えた造りや設備になっていない。
- ・子どもが小学生という30代、40代の子育て中の人フォローになるような場所がない。支援サークルを通さないと有効利用できないのが市（地域）の課題ではないか。
- ・（スポーツ少年団）施設使用の減免措置。試合で利用する場合は、ある程度は免除されているが、練習での利用には利用料が必要。活動目的の「健全育成」に配慮し、練習使用にも減免があるとよい（学校使用の電気代は仕方ない）。
- ・市民会館の利用無料化。少ない人数で市民会館を利用すると、一人当たりの負担が上がる。

【公民館講座、サークル活動について】

- ・月に2回がよい（ただし、負担増はいや）
- ・月に2回がよい（料金が高くなってもよい）
- ・公民館文化祭は全講座が参加し発表することになっているが、成果を発表するタイプの講座か否かで、参加の住み分けあってもよい。
- ・リーダーのなり手がいない。リーダー一人に負担が偏らないよう、入会したら全員が何かの役割を担うという公民館統一のルールを作るとよい。
- ・講座の募集人数に対して希望者が多く、1年ごとに抽選となっている。基礎を1年習ってこそ、もっと描きたいと思えるが、抽選に外れるとブランクができてしまう。（長島・スケッチ）
- ・会員が増えないので、もっとPRしてもらいたい。
- ・全国的にも希少で伝統文化でもある相撲甚句のような講座は、中央公民館など人が集まりやすい中央の場でやったほうがよい。
- ・障害者や子どもに、無理なく楽しく行える3B体操を広めたいが、予算が削られて先生への依頼が減り（減ったようで）デモンストレーションをする機会が減っている。

(5) その他の聞き取りでのご意見

【地域に生涯学習を広げていくことについて】

- ・地域にはいろいろなアイデアや特技を持つ人がいる。その人を知っている人が誘い合って連れてきてくれるようになるとよい。
- ・生涯学習の活動範囲を地域に広げたり、他の活動と一緒にやったりするには、活動範囲が広い人、知り合いの多い人、活動的なキーマンに先頭を切ってもらい、口コミで広げてもらうとよい。
- ・キーマンを見つけるのは大事だが、先に責任論を出すとやり手はいなくなる。自発的な活動、主体的にやるのが望ましい。
- ・地区以外で何かやろうとすると、移動手段が必要になる。小学校区でやるなら、小学生が歩いて行ける範囲なので参加しやすい。地区ごとに参加者を少しずつ増やしていき、市全体で参加者を増やすのがよい。

【生涯学習、活動全般について】

- ・母親に自己肯定感を持ってもらい、何に興味があるかを母親交流の中で互いに見つけていけるようなサークル活動をしていきたい。しかし、そうした活動内容の意義や効果は施設や行政には伝わりにくい。わかりやすい活動で、多くの参加者を集める活動のほうがメインになっている印象。
- ・「子どもにこういう体験をさせたい、活動をさせたい」というメールをもらい、それを何ヵ月かに1回実施して、お母さんたちとの接触を図っている。コーディネートとカウンセリングの両方を行う活動になっている。
- ・「生涯学習」の言葉や意味は知っていても、現場のことはなかなか理解されない。生涯学習がどういうものを理解して、現場を引っぱって行ける人、キーマンを見つけていくのが大事。そういう代表者が参加者に話をすると、ついてくる人が多い。行政が言うと押しつけにとられる。
- ・公民館文化祭は、準備された、用意された場に受講生が乗るだけでなく、「自分たちの文化祭」という意識を浸透させ、自主的に準備することが大事ではないか。時間はかかると思うが。
- ・新しいことを知りたいという気持ちが皆にあるからサークルが長く続いている。自分が知らなかったことを学び、生活に応用してみるのが長く続く秘訣ではないか。
- ・生涯学習も地域の行事も、どんなことがあっても来る人は来る。来ない人は、どんなに誘っても来ない。
- ・(音訳) 活動補助を少しはもらい、公共サービスの一端を担っているという自負を持って活動している。その自負がモチベーションになっている。
- ・(音訳) 今はほとんどが家庭録音なので立地によって雑音が入る。録音室のある施設を利用できるとよいが。